

2019年4月の行事予定表

1	月		16	火	
2	火		17	水	聖書の学びと祈り会
3	水	聖書の学びと祈り会	18	木	祈禱会(証し会)
4	木	祈禱会	19	金	朝の祈り会、受難日
5	金	朝の祈り	20	土	
6	土		21	日	イースター(復活日)礼拝式、洗礼式、聖餐式、各会の例会日、墓前礼拝式
7	日	総員礼拝式、聖餐式、教会役員会	22	月	
8	月		23	火	
9	火		24	水	聖書の学びと祈り会
10	水	聖書の学びと祈り会	25	木	祈禱会
11	木	祈禱会	26	金	朝の祈り会
12	金	朝の祈り会	27	土	
13	土		28	日	礼拝式、教会総会
14	日	受難週・礼拝式、奉仕の日	29	月	
15	月		30	火	

4月お誕生・洗礼記念日の皆様、おめでとうございます。

編集後記

- ◇ 早いもので早くも新年度を迎える時期となりました。今月はF兄のお証し、世界祈禱日と教団の大会のレポート、そしてY兄の奨励要旨をお届けしました。この時期は気候の変化が大きく、体調維持も大変。
- ◇ でもレント(受難節)が明けた4月21日(日)はイースターです。主のご苦難を偲ぶこの時期を祈りつつ過ごしつつ、イエス様の復活を心からお祝いしましょう。
- ◇ 2018年度も、月報のためにお祈りのご協力をいただき、本当に感謝します。

(編集部一同)

教会月報

2019年4月

No.335

岡山ナザレン教会 月報編集委員会

癒しいやし

「イエスは言われた。『娘よ、あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい。』」

ルカによる福音書8章48節

聖書の中心は天地万物の創造主である神である。その中でもイエス・キリストの救済の出来事(十字架と復活)が中核として記述されている。

神は天地万物を創造されたが、被造物である人間は創造主である神に反逆し、アダムとエバは楽園から追放されたと創世記は記す。しかし、墮落した人間を救うために神はありとあらゆることを実行された。けれども人間は神の愛と赦しを受け入れずに人間中心に陥り、ひたすら彼らの望むメシア(救世主)を待ち続けたのである。

そこで神は決心された。一人子を神であるにもかかわらず、人間の姿(受肉)を取らせて(クリスマス)世に遣わされた。そして、イエスはメシアとして福音を語り、神の愛と奇跡を行われた。しかし、彼は同胞であるユダヤ人によって罪人に仕立て上げられ、結果としてローマ刑である十字架につけられる。イエスは生涯、神と人に仕え、最後まで神に従われた。それゆえ、神はイエスを死よりよみがえらせ(復活)たのであった。

さて、ルカ8:40-48に登場する長期間(12年間)出血性の病気で苦しんだ一人の女性がいた。彼女は青春の時期、毎日がうっとうしい日々を過ごしたようである。何とかしようとして、良い医者や良いと言われる薬を探し求め金銭も精神も使い果たし、希望が持てない絶望の危機に瀕していた。その時、イエスが通りかかると聞き彼女はイエス様のみ衣の一部にでも触れればとの一心でひそかに触れると、奇跡(イエスと女性間のスパークによるパワーが流出)によって出血が収まったことを体感した。誰にも知られずその場を去ろうとしたが、イエスの声に従い彼女はそれまでのいきさつを述べ、今起こった出来事を皆の前で証言した。それを聞いたイエスは彼女を叱責されないで、48節「娘よ、あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい。」と語られたのである。ここに信仰により癒された人の現実がある。人となられたイエスさまをキリスト(神の子、救い主)と信じる者は幸いである。

牧師 永松 清

3月伝道礼拝証し K.F.兄



このたび2月末に、会社の方から「4月から広島に転勤」という話をされまして、まさか26年間岡山に居ましたのでもう転勤は無いだらう、と高を括っていたところでした。広島なので、週末は帰ってこようと思います。

そこでひとつ思ったこと。これって何か神様がぼくに伝えたいことがあるのではないかなあと感じまして聖書をいろいろ調べてみたところ、これかな、と思ったところのことをお話したいと思います。

Ⅱコリント4章16節『たとえわたしたちの、「外なる人」は衰えていくとしても、わたしたちの「内なる人」は日々新たにされていきます。』

聖書やネットを調べてみて、外なる人というのは、この肉体。年齢によってどんどん昔に比べたら視力も落ちたりして、年を取っているかなあと感じています。内なる人って、神様によって送り出された新しい命であるそうです。神様が、老若男女問わず与えて下さっているんだなあと思いました。それは日々新たにされていきます、リフレッシュされて新たなことに挑戦していったら成長できるのでは、ということに感じました。

この言葉を見た時、確かに26年間転勤も無く岡山で過ごしてきた自分が、広島で知らないところで知らない人たちと仕事をしていくことを考えると、この歳から成長していけるんだなと感じながらリフレッシュしてやっていきなさいね、と神さまがおっしゃってくださったのかなあと。

先日、引継ぎをしたり広島で家を探したりしてきたのですが、経験していないことが経験できるということは、岡山に戻ってきたときに活かされるのではと思います。定年まで12年。この聖書の言葉を片隅において、広島で頑張りますので、よろしく願います。(礼拝CDより)



世界祈禱日に出席して



3月1日(金) 午後1時30分より 会場 岡山岡南教会

当教会出席者:永松牧師夫妻、青木師、M姉、K姉、K姉、K姉(7名)

私の出席は4年ぶりになります。参加教会、出席者数、そして参加者の顔ぶれが変わらず、姉妹達が今も変わらぬ若々しさに嬉しくなりました。

本年度の祈りは、ヨーロッパの中心部にある最も小さな国のひとつ、スロベニアという人口わずか200万人。四国位しかない国の中の少数民族ロマからのメッセージでした。共産主義国家であるため、他の宗教を信じる事自体が差別の対象とされ、この対象は学校に通う子供たちにまで及びました。

この様な状況にあっても、クリスチャンの彼女は信仰者として、全ての人が良い教育を受けられるよう、そして生活環境も整えられるように祈ります。出席するたびに思うのですが、いまだにこのような国があるのかと思われ、祈る事の足りなさを反省させられます。(R.K.)



奨励要旨 K.Y.兄 (2019.3.10)



先日の水曜日、いわゆる《灰の水曜日》から受難節、他の教派などで四旬節ともよばれる期間に入りました。私の奨励の時にはなぜかこのような節目での場合が非常に多くて、しかしこれはどのような神様のご意思があるのだろうかといつも考えるのですが、このような気持ちを新たにする時に頂く学びの恵みだと感謝しています。

四旬とは『40番』を意味しますがこの40という数字は聖書の中において度々登場する重要な意味を持つ数です。またこの期間は《レント》とも呼ばれますが、これはゲルマン語で『春』を意味する言葉から生まれた呼び方だそうです。私事で恐縮ですが3月は私の母の誕生日でした。召されて早くも6年が過ぎた母は終戦後に兄(伯父)が京都上京教会に通うようになりその後を追って主に導かれました。結婚、上京の後に父と別れて京都に私達兄弟を連れて帰った母ですが苦勞の連続。それを見て育った私には父への『憎しみ』が大きくなっていきました。しかしこの醜い思いは『罪』そのものでしかありません。受洗した後も私の父への気持ちは変わらぬままでしたが最後までずっと父の悪口を言わなかった母が病の床に着く直前に、父の訃報が届きました。その時から父への気持ちに変化が生まれました。父と母が出会い、その結果自分がこの世に生まれた事実を認められるようになりました。それこそが私が教会で学ぶべきことでありました。イエス様の受難と贖罪によって生かされている私にとって、父を赦す赦さないという選択そのものが間違いであり、神様によってのみ決定されることであることを学ばされました。今でも私は父を好きにはなれていません。それでもその父を母が愛し、そして私がこの世に生まれた事実に対していまでは感謝できるようになりました。

『あなたがたの一人一人が、心から兄弟を赦さないなら、わたしの天の父もあなたがたに同じようになさるであろう』(マタイ18:35)

私のような罪をイエス様は全く犯さないまま、罪人のそしりを受けて十字架に架られました。私こそがその場所に居なければならなかったのにもかかわらず・・・です。

この受難節は全てのクリスチャンがイエス様に感謝を捧げるべき期間です。信仰によってのみ救われると信じる私達にとっては、イースターまでの40数日間がかけがえのない祈りの時だと思います。

赦されていることに感謝して主のご苦難を偲びつつ、御心に適うものになりたいと願います。

ナザレン教団第72回年会 (3/8~3/10) に出席して

新理事長が決定するまで7回投票を繰り返しました。信徒代議員で初参加の私は、

その選出方法に疑問や課題を感じました。

会計報告では、岡山教会からの本部献金等がどのように活用されるのか会計役員として責任を自覚する良い機会となりました。32議案の審議は長丁場で、信徒理事のD兄の尊いお働きに改めて感謝しました。

聖霊に満たされた伝統ある儀式《按手礼式》にも立ち会うことができ、参加を心から感謝いたしました。

(S.O.姉)

